

2026年度 TOPS 報告書

文責：田島、金中

【プログラム概要】

- ・期間：2026（令和8）年8月1日（土）～8月20日（木）計20日間
- ・場所：英国 オックスフォード・ケンブリッジ
- ・参加者：高校生 52名（うち Tazaki 財団 第10期語学研修生6名、第9期留学奨学生8名）、中学生1名 サポーター：8名

【TOPS について】

TOPS（Tokyo Oxford Programme of Summer）は、イギリスの大学への進学を目指す高校生・大学生を対象としたサマープログラムです。2012年に東京大学の課外活動プログラムとして始まり、現在はオックスフォード大学・ケンブリッジ大学などを舞台に実施されています。

プログラムでは、オックスフォード大学やケンブリッジ大学で実際に教えている教員による専門科目の授業や、少人数での個別指導（tutorial / supervision）を英語で体験します。数学、法学（Common Law）、古典学（Classics）、コンピュータサイエンスなど、通常の英語研修とは異なる専門的な学びができることが大きな特徴です。

また、現地の大学の寮（コレッジ）に滞在し、授業だけでなく、大学での生活やディナーなども体験することで、イギリスの大学進学をより具体的にイメージできるプログラムとなっています。

【日程】

日付（8月）	活動内容
1日（土）	羽田空港から BA・JAL 便にて分かれて出発。 BA 便ヒースロー空港到着すぐ、バスでオックスフォードへ移動。 Jesus College と Balliol College に分かれて入寮。
2日（日）	JAL 便到着。
3日（月）	授業 第1セッション① Sir Adam Roberts の講演
4日（火）	授業 第1セッション②

5 日（水）	授業 第 1 セッション③ Sandy Steel 教授の講演
6 日（木）	Tutorial 高田絢子様/ David Feldman 教授の講演
7 日（金）	授業 第 2 セッション① 座談会
8 日（土）	コッツウォルズへ遠足
9 日（日）	自由行動：グループに分かれてロンドン観光やオックスフォード市内 散策
10 日（月）	授業 第 2 セッション②
11 日（火）	授業 第 2 セッション③ 菅波教授の講演 Balliol College にてフォーマルディナー
12 日（水）	ケンブリッジへバスで移動。King's College に宿泊。 Department of Manufacturing 研究室見学
13 日（木）	授業 第 3 セッション①
14 日（金）	授業 第 3 セッション②
15 日（土）	自由行動：グループに分かれてロンドン観光やケンブリッジ市内散策
16 日（日）	自由行動：グループに分かれてロンドン観光やケンブリッジ市内散策
17 日（月）	授業 第 3 セッション③ King's College にてフォーマル・ディナー
18 日（火）	ロンドン訪問 各所見学
19 日（水）	バスでヒースロー空港へ移動し、出国。
20 日（木）	羽田空港に到着。

【詳細日程】

○出国～現地到着

8 月 1 日は早朝に羽田空港に集合し、BA 便と JAL 便の 2 便に分かれて英国へ向けて出発しました。BA 便は予定通り先に出発しましたが、JAL 便では離陸後、約 3 時間半が経過したところで機材の不具合が判明し、羽田空港へ引き返すこととなりました。JAL 便に搭乗していた生徒たちは一度羽田空港へ戻り、その後、空港近くのホテルに宿泊しました。

翌朝、JAL 便の生徒たちは早朝の振替便に搭乗し、改めて英国へ向けて出発しました。そのため、当初の予定より約 1 日遅れてヒースロー空港に到着することとなりました。通常でも日本から英国まで約 14 時間に及ぶ長いフライトですが、今回は一度羽田へ引き返した後、翌日に再び長時間のフライトをすることとなり、身体的な負担も大きかったと思います。

それでも、ヒースロー空港到着後は大きく体調を崩すこともなく、無事に全員が現地へ到着することができました。その後、それぞれの宿泊先へ移動し、Tazaki 財団生および女子生徒は Balliol College に、その他の男子生徒は Jesus College に宿泊しました。

到着当日は長時間の移動による疲労も考慮しながら荷物を整理し、翌日以降のプログラムに備えました。

【授業】

第1セッション（8月3日～6日）

- A Level English
- Maths
- Further Maths
- Virgil
- Mythology
- Tragedy



第2セッション（8月7、10、11日）

- Greek Writing and Books
- Maths
- GCSE / A Level Maths
- Contract
- Further Maths
- Homer
- Latin Grammar

第3セッション（8月13、14、17日）

- Art & History
- Chemistry
- English Legal System
- Physics
- Anthropology and Classics
- Biology

- Tort

授業のある日は、基本的に以下のようなスケジュールで過ごした。

時間	内容
8:00 頃	起床
8:00～	各カレッジにて朝食
9:30～13:00（ケンブリッジ：9:00～12:15）	午前の授業
13:00～14:00（ケンブリッジ：12:15～13:15）	昼休み
14:00～17:30（ケンブリッジ：13:15～16:30）	午後の授業
17:30～18:00 頃	講演・自由時間等
18:00 頃～	各カレッジにて夕食
夕食後	自由時間・就寝

授業だけでなく、講演会やチュートリアルなどが組み込まれている日も多く、朝から夕方まで専門的な学習や活動が続く、密度の高いスケジュールとなっていました。

授業開始直後は、英国の大学で専門科目を英語で学ぶという普段とは大きく異なる環境に加え、日本の学校では必ずしも扱わない内容も多く、緊張や戸惑いもあったようです。特に古典学や English などでは専門的な用語が難しく、授業についていくことに苦労したという声もありました。

一方で、授業を重ねる中で少しずつ環境に慣れていったという話もあり、生徒から質問や意見が出るようになったとのことでした。生徒同士の発言や質問がきっかけとなって、自然なやり取りが生まれることもあり、普段とは異なる環境の中で積極的に学ぶ経験となりました。



【講演】

TOPS では、授業だけでなく、各分野で活躍されている専門家による講演も複数行われました。普段の学校生活ではなかなか聞くことのできない話を直接伺うことで、学問や将来の進路について考える機会となりました。

8月3日には、オックスフォード大学で国際関係論を専門とする Sir Adam Roberts による講演が行われました。

今回の講演では、戦争をめぐる問題を中心に、国際社会や国家間の関係について考える機会となりました。普段の学校の授業とは異なり、世界的に研究を行ってきた専門家から直接話を聞くことができたことは、生徒たちにとって貴重な経験となりました。



8月6日には、ケンブリッジ大学を卒業後、オックスフォード大学で医学を学ばれた高田 絢子医師による講演が行われました。イギリスでの学びや仕事について、ご自身の経験を交えながらお話しいただきました。

高校生に向けたメッセージも多く、生徒たちにとって将来の進路や海外で学ぶことについて考えるきっかけとなる講演となりました。

このほかにも、TOPS 期間中にはさまざまな分野の講師による講演が行われ、普段の授業とは異なる形で専門的な学びに触れる機会となりました。

【フォーマルディナー】

オックスフォード最終日の8月11日には、Balliol College のダイニングホールにてフォーマルディナーが行われました。TOPS で授業を担当された講師も出席し、生徒たちは同じテーブルを囲みながら食事を楽しみました。

普段は授業を通して接することが多い中、この日は授業とは少し違った雰囲気、食事をしながらゆっくりと会話を楽しむことができました。授業以外の話題について話す機会もあり、講師との距離をより身近に感じられる楽しい交流の時間となりました。

また、普段一緒に授業を受けていない生徒同士が同じテーブルを囲むことで、新たな交流が生まれる場にもなりました。フォーマルな服装に身を包み、歴史ある College のダイニングホールでコース料理をいただくという経験は、TOPS ならではの貴重な思い出になったと思います。



ケンブリッジでも同様、8月17日に King's College にてフォーマルディナーが行われました。また、ディナーの後には一人一人に修了証が授与されました。

【エクスカーション】

○コッツウォルズ地方

8月8日にはコッツウォルズ地方を訪れました。まず Sibford という村を訪れ、その後 Sibford Quaker Meeting を見学しました。集会所では、クエーカー教徒の方から、その歴史や考え方、日本との関係などについて説明を伺いました。

普段なかなか触れる機会のない英国の宗教や文化について直接話を聞くことができ、生徒たちにとって貴重な経験となりました。



その後は現地のパブに移動し、昼食をとりました。この日は、パンやチーズ、ハム、サラダなどを中心としたコールドランチをいただきました。英国の伝統的なパブランチの一つである Ploughman's lunch を実際に味わうことで、英国の食文化にも触れることができました。



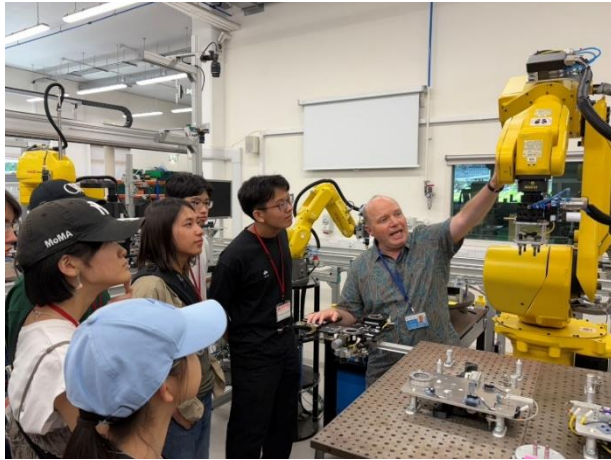
最後に Broughton Castle を訪問し、館内や庭園を見学しました。

見学後は併設されたカフェでクリームティーをいただき、スコーンにクロテッドクリームとジャムを添えて、英国らしいティータイムを楽しみました。

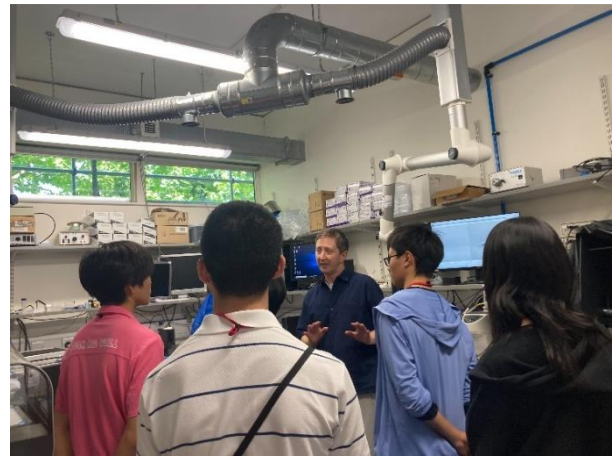


○ケンブリッジラボ見学

ケンブリッジ到着後すぐ、希望者は Institute for Manufacturing を訪問し、Professor Ronan Daly (Professor of Advanced Manufacturing) および Alan Thorne (Technical Officer) より、それぞれの研究内容や研究設備について説明を受けました。Daly 教授からは、先端製造技術を基盤とした流体・材料に関する研究や、医療分野における薬物送達など、製造工学とヘルスケアを組み合わせた研究について説明を受けました。Thorne 氏からは、製造現場における自動化技術やロボティクス、識別・ネットワーク技術等について説明を受け、実際に研究室内のロボットや自動化システムを間近で見学しました。実際に研究が行われているラボや設備を見学することで、生徒たちは大学で学ぶ科学が異なる分野の技術と結びつき、実社会でどのように応用されているかを知る貴重な機会となりました。



Alan Thorne 先生による説明



Professor Ronan Daly による説明

○ロンドン訪問（18日）

8月18日には、ロンドン訪問が行われました。生徒たちはそれぞれの興味や進路に合わせてコースを選択し、サポーターが同行して各訪問先を回りました。

今年度は、UCL（University College London）や LSE（London School of Economics and Political Science）などの大学を訪問するコースに加え、Supreme Court（イギリス最高裁判所）、Allen & Overy Shearman などの法律関係の訪問先、PwC などの企業を訪問するコースも用意されました。

大学での学びだけでなく、法律やビジネスなど、さまざまな分野の実際の現場に触れることができ、将来の進路について考える貴重な機会となりました。



○週末自由行動日

週末の自由行動日には、多くの生徒がロンドンを訪れました。

生徒それぞれの希望に合わせてグループを作り、サポーターが同行して行動しました。大英博物館やコヴェント・ガーデン、ミュージカル、シャーロック・ホームズ・ミュージアム、ウェストミンスター周辺、サウス・ケンジントン周辺など、各自が興味のある場所を選び、ロンドンでの自由な時間を楽しみました。

【その他】

Oxfordでの生活に加え、Cambridgeでは街そのものを楽しむ時間も多有りました。特にCambridgeでは、川を行き交うパンティングを楽しむ人も多く、歴史あるCollegeの建物や川沿いの風景と相まって、英国らしい美しい街並みを身近に感じることができました。

また、滞在中にはちょうど部分日食が重なり、普段とは少し違った幻想的な景色を見ることができました。歴史ある建物と美しい街並みの中で見るその光景は印象的で、学問だけでなく、現地で過ごす時間そのものもTOPSの大きな思い出の一つとなりました。



【最後に】

今回のTOPSでは、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学で専門科目を英語で学ぶだけでなく、現地のカレッジで生活し、講演やフォーマルディナー、エクスカーション、ロンドン訪問など、さまざまな経験を行うことができました。

約3週間の滞在を通して、普段とは異なる環境の中で学ぶことの難しさがある一方で、実際に海外の大学で学び、生活するからこそ得られる経験も多くあると感じました。授業以外の時間にも、講師や他の生徒との交流、英国の文化や歴史に触れる機会があり、大学進学や将来について考えるきっかけも多かったのではないかと思います。

最後になりましたが、今回のTOPSで関わってくださった皆様、そして20日間をともに過ごした生徒の皆様に、心より感謝申し上げます。